

## 権力の多次元性：テオティワカンにおける都市建設から考える

村上達也（テュレーン大学人類学科）

### はじめに

権力関係は多次元的であり、異なる物質文化の生産・流通・消費は必ずしも首尾一貫した一つの次元あるいは支配・被支配関係を形成しているわけではない。本発表では、マイケル・マン [Mann 1984] が提唱した国家の「インフラストラクチャー的権力」という概念に注目し、異なる次元の権力関係をどのように考古学的に検証できるのか、テオティワカン（図1）の都市建設における労働量と建築材（漆喰と切石）の分析を通して考察する。インフラストラクチャー的権力は強制的に行使される「専制的権力」と対比され、国家がそのインフラストラクチャーを通して深く市民社会に浸透することで社会的諸活動を調整する力のことである。インフラストラクチャー的権力の行使は国家と異なる社会集団との交渉の上に成り立つものであり、一元的な支配・被支配関係という概念では捉えきることのできない社会関係を理解するのに貢献する。さらに、権力の不平等と社会の同一性という相矛盾する現象がいかにして同時に成立しうるのか考察する材料を与えてくれる。

### 権力のマテリアリティ、権力の多次元性

権力を考古学的に研究する方法論を確立するためには、権力と物質文化の関係を理解する必要がある。本発表では実践理論、特にギデنز、スーウェルの理論モデルを概観し [Giddens 1979, 1984; Sewell 1992]、物質文化は社会関係を単に反映しているのではなく、社会関係を構成する一部であることを確認する。社会関係は家族関係から組織内の関係、組織間の関係など、様々な次元、スケールから成っていることから、おのずと権力関係も多次元的に存在していることになる。そして、同じ「モノ」が異なる次元で異なる社会関係を構成している一方で、異なる「モノ」が一元的な権力関係を構成しているわけではないことも説明することができる。

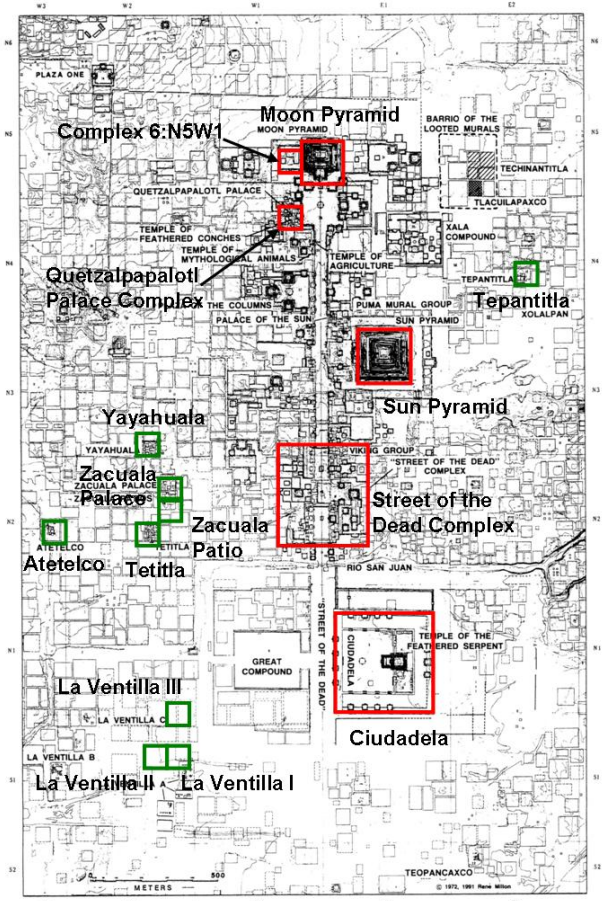


図1. 本研究で使用した建造物（緑はアパート式住居複合；Millon 1973から転用・加筆）。

権力は伝統的に支配・被支配関係の枠組みで議論されてきたが、実践理論が考古学に浸透していく過程で、被支配者の行為主体（エージェント）としての権力に注目する研究が増え、複雑社会の社会政治過程はトップ・ダウン（支配層の[半]強制的な権力行使）と、ボトム・アップ（被支配層が生み出していく変容）という枠組みで議論されるようになった。しかしながら、この新たな枠組みも結局二項対立的であり、「トップ」と「ダウン」がどのように関わりあっているのかの議論には発展していない。

そんな中、社会学者マンの「インフラストラクチャー的権力」[Mann 1984]、政治学で活発に議論されている「集合行為（Collective Action）」[Blanton and Fargher 2008]などの概念が考古学にも援用されるようになり、政治体というものが、いかにして権力の差異と社会的同一性の相互作用のなかで形成されているのかに注目が集まっている。本研究発表は、この新たな試みの一つである。

### 調査方法とサンプル

権力関係を構成している物質文化のなかでも、建築はその可視性と半永久的な物理性から特に援用されやすいものである。そこで本研究では、テオティワカンの都市建築を例にとり、建造物がどのような権力関係を構成していたのか通時的に概観する。

テオティワカンでは形成期終末期（前150年頃）に都市化が始まり、紀元後200年頃に地域国家の首都として確立し

た。その後、後300年頃から都市の再開発が始まり、10万人前後いたと推定されている人口の大部分はアパート式住居複合（図2）に居住するようになった[Cowgill 2000; Millon 1981]。おそらく、後500年以降に国家は衰退し始め、後650年頃までには崩壊したようである。本発表では、国家形成の時期、都市変革の時期、そして国家衰退の時期の3つの時期に焦点を絞る。

本研究では、建造物を作り出すための労働量と労働組織、建築材の質の差異を分析した。労働量の分析では、実験をもとに建設に必要な労働量を推定した。建築材の分析では、安山岩性の切石と化粧漆喰に注目した。これら二つに注目した理由は、他の建築材と比べ、両

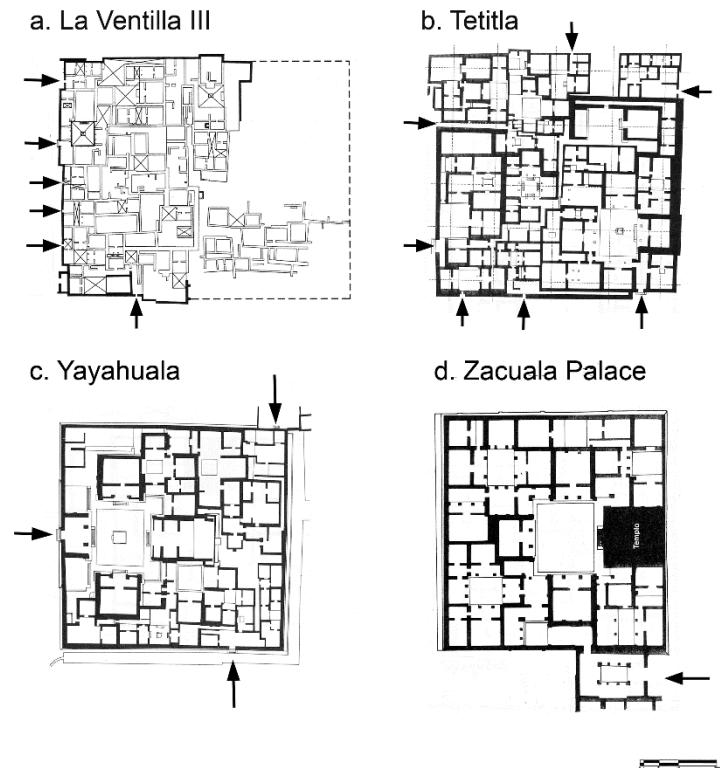


図2. アパート式住居複合（↑は入口；Murakami in press-a より）

方とも生産により時間がかかり、一部の切石と特に漆喰の原料である石灰岩はテオティワカン谷には存在せず他の地域から輸入する必要があったためコストがかかり、権力の差異と密接に関係している可能性があったからである。切石の分析では、発掘されているコンテキストからその分布を検証し、さらに地化学分析から産地を推定した。漆喰の分析では、ペトログラフィ (petrography ; 記載岩石学) とカソードルミネッセンス (cathodoluminescence ; 詳しくは Murakami et al. 2013 を参照) を使い漆喰の質と組成を分析した。

本研究に用いたサンプルは全部で 15 の建築複合で、すべて発掘されたものである。死者の大通り沿いの大ピラミッドを含む 6 つの建築複合、8 つの中間エリート層のアパート式住居複合、そして平民のアパート式住居複合 1 つが含まれる (図 1)。

### 分析結果

労働量の分析からは、支配層が大規模建造物に費やしたコストの推移が明らかになった。3つの時期に行われた大規模建築プロジェクトのコストを対人口比で相対化すると、ほとんど変化は見られなかった (図 3)。アパート式住居複合の建設には多大なコストがかかることが判明した。1つの住居複合が何年かけて建てられたのかは不明だが、平民が自分たちだけで建てた可能性は低い。

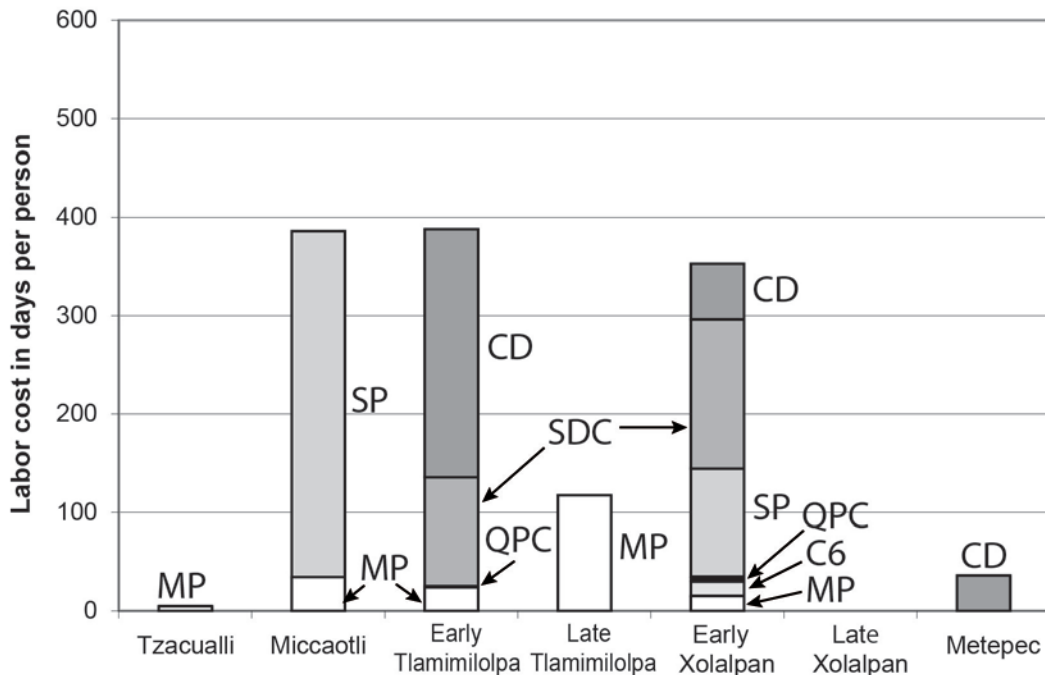


図 3. 中心地区における人口一人当たりの労働量の推移 (Murakami in press-b より)。MP=月のピラミッド; SP=太陽のピラミッド; CD=シウダデーラ; SDC=死者の大通り建築複合; QPC=ケツアルパパロトル建築複合; C6=コンプレックス 6 : N5W1。

安山岩系の切石は死者の大通り沿いに集中しており、その中でも政治的・宗教的に重要な建造物に使用された（図4）。その一方で、平民のアパート式住居複合でも数個、テオティワカン谷内で産出する玄武岩系の切石と共に使用されている。衰退期にかかると中心地区内での建設活動自体が減少し、最終期に建てられた建造物に切石はほとんど使用されなかった。それと対照的に、いくつかの中間エリート層のアパート式住居では衰退期になりふんだんに切石が使用された。地化学分析の結果から、中心地区で使用された石の産地とアパート式住居で使用された石の産地に違いはほとんどなかった。多くの切石は近隣の山ではなく、少なくとも20キロメートル離れた場所から運ばれていた可能性が高い。もともと支配層に管理されていた生産・流通システムが崩壊し、強力な中間エリート集団に乗っ取られた可能性がある。

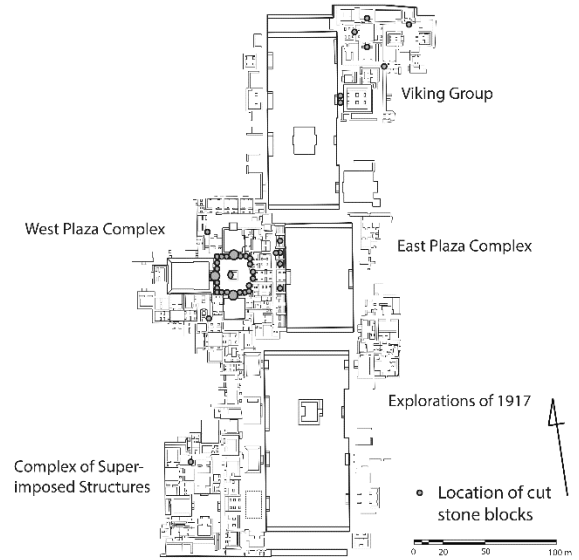


図4. 死者の大通り建築複合内における切石の分布（Murakami n.d.より）。

漆喰の分析からは、死者の大通り沿いの建造物とアパート式住居複合の間に、その質と組成に違いはほとんどなく、高度に標準化されていたことが判明した。後350年頃には漆喰の組成が大きく変化するが、都市内で一斉に変化した可能性が高い。生産ならびに流通のコストを考慮に入れると、都市内での漆喰生産はギルドのような組織によって集権的に管理されていた可能性が高い。そしてこの組織は、都市改革以前には漆喰の使用が支配層に限られていたことから、国家と密接に関係していると思われる。衰退期になると漆喰の質と組成に違いが見られるようになり、集権的な生産・流通システムは崩壊したようである。異なる住民集団が、独自の社会ネットワークを通して原材料を輸入し漆喰を生産していた可能性が高い。

## まとめと考察

国家が形成された後200年頃には、支配層はかなり集権化された専制的権力を行使し、巨大ピラミッド群を建てていった。それは、羽毛の生えたへびの神殿で発見された200体以上にも及ぶ生贄の埋葬からも伺える〔Sugiyama 2005〕。

その後、後300年頃からテオティワカン国家は都市の大改革に乗り出すが、この過程で権力関係が大きく変化した可能性が高い。まず、2000にも及ぶアパート式住居複合の建設は、国家の介入なしには実現できなかったと考えられる。もともとミロン

〔Millon 1981〕は、都市の計画性、標準化された建造物の方角から、国家の支配層が建築材を供給したと考えたが、本研究は彼の仮説を支持するものである。ただし、都市改革が支配層の意志のみによって実行されたと考えるのは早急であろう。集合住宅を建設

し、被支配民の統治システムを強化する目的であれば、多大なコストがかかる漆喰を大多数の住民に供給する必要はなかったように思われる。一つ考えられるのは、良質の建築材に対する「需要」が住民の側にあったのではないかということである。「需要」とは政治的に創造されるものだとするアパデュライ [Appadurai 1986] の言葉を借りるならば、都市改革以前のテオティワカンでは漆喰は一種の奢侈品で、その使用が支配層に限られていたことで漆喰や石造の住居に対する「需要」が創出されたと考えられる。そして、この需要を満たすために国家主導で大量の石灰が輸入されたのではないだろうか。

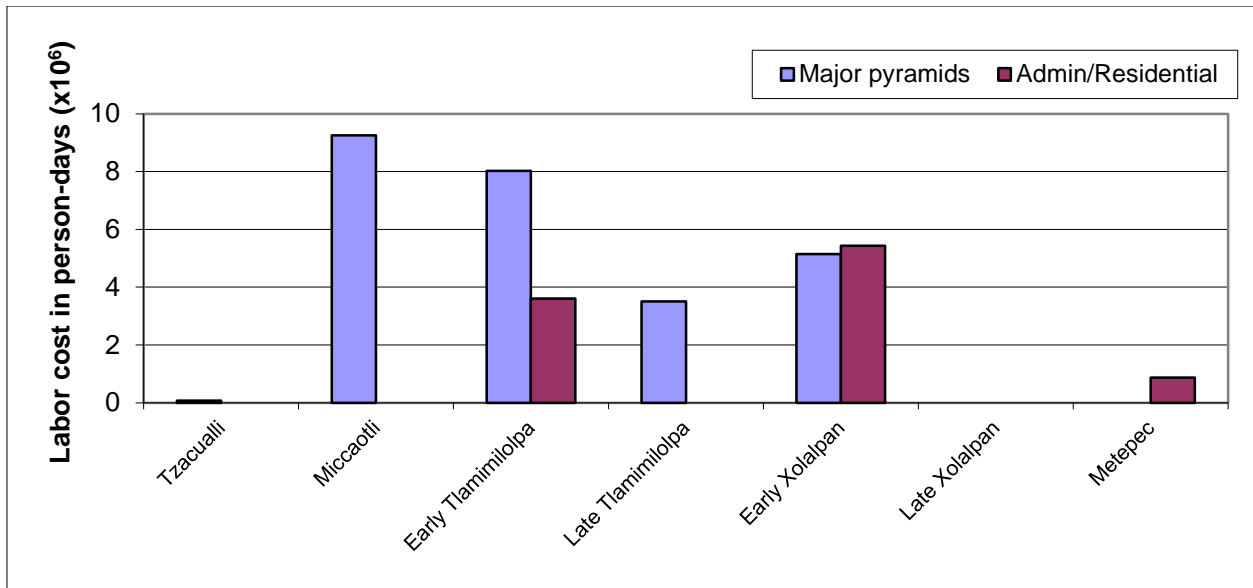


図5. 中心地区における大ピラミッド群と行政・居住用建造物の総労働量の比較 (Murakami in press-a より)。

そしてこの都市改革の過程で、国家の官僚組織が大きく発展したと考えられる。ピラミッド群を建造する労働量と比較して行政・居住用建造物に対する労働投資が後350年頃(ショラルパン期前期)に増加するのが傍証の一つである(図5)。機能主義的観点から見ると、官僚制はたいてい統治者の政治目標を実行に移すために形成されるものだが、同時に、資源を徴収する対象である被支配民の需要をある程度満たす必要がある。つまり、国家が国内の税収入に依存している程度により、官僚組織は公共サービスを提供あるいは管理する必要があるのである [Blanton and Fargher 2008]。官僚制の比較研究から、アイゼンスタット [Eisenstadt 1963] はこの種のサービス指向型官僚制の特徴として、統治者に対する依存と様々な社会集団(被支配集団)との部分的融合の二点を挙げた。現在まで提出されている考古学資料から、テオティワカンの官僚組織はこれらの特徴と合致していると考えられる。つまり、アパート式住居複合に居住する住民の一部(おそらく中間エリート層)が官僚組織に組み込まれ、これら住民の利害関係や関心が行政にも反映されていたと考えられるのである。このような政治組織では、トップ・

ダウンとボトム・アップという対比が曖昧になり、統治者、官僚、そしておそらく中間エリート層や他の社会集団の戦略的行為や利害関係が複雑に絡み合っ、それが高価な建築材の供給という形で体現したものと思われる。つまり、都市改革は国家のインフラストラクチャー的権力の行使によって達成されたと考えられる。

後500年以降、国家は衰退期に入り、中間エリート層が台頭する。集権的に統治されていた建築材の供給システムはおそらく崩壊し分断された。異なる社会集団間の競合関係はおそらく内部抗争へと発展していき、テオティワカン国家の崩壊へつながっていったと考えられる。

### おわりに

専制的権力とインフラストラクチャー的権力は互いに相容れないものではなく、同時に行使されうるものである。都市改革期のテオティワカン国家は強大なインフラストラクチャー的権力を行使したと考えられるが、都市中心部の建設活動を見れば同時に専制的権力も行使していたことが伺える。そして、支配層、被支配層をそれぞれ一枚岩的なものと見るのではなく、異なる集団間、派閥間の関係によって形成されていると見ること、複雑な社会関係の網目を垣間見ることが可能となる。たいてい国家の政治的決断は、統治者、官僚、そして行政や祭祀に関わる様々な組織・個人の間での交渉の上に成り立っている。そして、異なる次元の権力の行使には社会的同一性の形成が密接に関わっていることを忘れてはならない。例えば、インフラストラクチャー的権力の行使により、標準化された建築材、アパート式住居複合という形態が広く都市住民に行きわたったと考えられるが、それにより「都市住民」というアイデンティティが強化され交渉される「場」が作られたと考えられる [Murakami 2014]。しかしそのアイデンティティは、高価な建築材を持たない、あるいはアパート式住居複合に居住していない住民との差異を強調するものでもあっただろう。反対に、専制的権力の行使で強調されたであろう支配層と被支配層の差異により、支配層内のアイデンティティが強化されたと考えることもできる。こうして、差異と同一性の政治学は、異なる状況やコンテキスト、スケールのなかで作用していくものと理解することができる。

### 引用文献

Appadurai, Arjun

1986 Introduction: Commodities and the Politics of Value. In *The Social Life of Things: Commodities in Cultural Perspective*, edited by Arjun Appadurai, pp. 3-63. Cambridge University Press, Cambridge.

Blanton, Richard E. and Lane Fargher

2008 *Collective Action in the Formation of Pre-Modern States*. Springer, New York.

Cowgill, George L.

2000 The Central Mexican Highlands from the Rise of Teotihuacan to the Decline of Tula. In *The Cambridge History of the Native Peoples of the Americas. Volume II: Mesoamerica*,

- Part 1.*, edited by R. E. W. Adams and M. J. MacLeod, pp. 250-317. Cambridge University Press, Cambridge, UK.
- Eisenstadt, Shmuel Noah  
1963 *The Political Systems of Empires*. The Free Press of Glencoe, London
- Giddens, Anthony  
1979 *Central Problems in Social Theory*. University of California Press, Berkeley.  
1984 *The Constitution of Society: Outline of the Theory of Structuration*. University of California Press, Berkeley and Los Angeles.
- Mann, Michael  
1984 The Autonomous Power of the State: Its Origins, Mechanisms and Results. *European Journal of Sociology* 25: 185-213.
- Millon, René  
1973 *The Teotihuacan Map. Part 1: Text. Urbanization at Teotihuacan, Mexico, vol. 1*. University of Texas Press, Austin.  
1981 Teotihuacan: City, State, and Civilization. In *Supplement to the Handbook of Middle American Indians, vol.1: Archaeology*, edited by V. Bricker and J. A. Sabloff, pp. 198-243. University of Texas Press, Austin.
- Murakami, Tatsuya  
2014 Power Relations, Social Identities, and Urban Transformations: Politics of Plaza Construction at Teotihuacan. In *Mesoamerican Plazas: Arenas of Community and Power*, edited by Kenichiro Tsukamoto and Takeshi Inomata, 34-49. University of Arizona Press, Tucson.
- in press-a* Entangled Political Strategies: Rulership, Bureaucracy, and Intermediate Elites at Teotihuacan. In *Political Strategies in Pre-Columbian Mesoamerica*, edited by Sarah Kurnick and Joanne Baron. University Press of Colorado, Boulder.
- in press-b* Replicative Construction Experiments at Teotihuacan, Mexico: Assessing the Duration and Timing of Monumental Construction. *Journal of Field Archaeology*.
- n.d.* Political Dynamics and Non-Local Resources at Teotihuacan: Early Classic Interaction Viewed from the Metropolis. In *Teotihuacan and Early Classic Mesoamerica: Multi-Scalar Perspectives on Power, Identity, and Interregional Relations*, edited by Claudia García-Des Lauriers and Tatsuya Murakami. University Press of Colorado, Boulder (manuscript in prep).
- Murakami, Tatsuya, Gregory Hodgins, and Arleyn W. Simon  
2013 Characterization of Lime Carbonates in Plasters from Teotihuacan, Mexico: Preliminary Results of Cathodoluminescence and Carbon Isotope Analyses. *Journal of Archaeological Science* 40(2): 960-970.
- Sewell, William H., Jr.  
1992 A Theory of Structure: Duality, Agency, and Transformation. *The American Journal of Sociology* 98(1): 1-29.
- Sugiyama, Saburo  
2005 *Human Sacrifice, Militarism, and Rulership: Materialization of State Ideology at the Feathered Serpent Pyramid, Teotihuacan*. Cambridge University Press, Cambridge.